

第 1 回愛媛県県立学校振興計画検討委員会地域協議会の協議結果（概要）

- 1 日 程 等 令和 2 年 9 月 29 日（火）～11 月 5 日（木）県内 8 地区で開催
- 2 出席者等 ○地域協議会会員 163 人（代理出席を含む）
○教育委員会事務局 8 人（指導部長、高校教育課長、他）
○傍聴者 18 人（延べ人数）

3 協議結果

四国中央	○旧市町の意識が強く、<u>学校が減れば、地元住民のショックが大きい</u>と予想。 ○各高校が<u>特色を出し、それを小中学生に伝えることが重要</u>。 ○<u>県外・市外へ進学する生徒が増えていることが課題</u>。 ○地域に製紙産業が多くあるので、<u>紙産業関係の学科の設置を希望</u>。
新居浜	○<u>工業高校に、土木建築学科の設置を希望</u>。 ○高校は人材を供給する機関であり、<u>高校卒業後、地元に残り働く生徒、市外の大学で勉強した後、Uターンする生徒のどちらも重要</u>。故郷を愛する心の育成を。 ○<u>高校生の、地域や小中学校との交流は増加</u>しており、活性化等に役立っている。
西条	○<u>地域に任されるのは責任が重い。県の統一した考え方が必要</u>。 ○魅力ある高校とは何か、<u>中学生や高校生に聞いてみてはどうか</u>。 ○<u>学校統合は切ないが、切なさを埋めて余りあるいい学校を作ってほしい</u>。 ○<u>市内 5 高校には伝統があり、熱い思いがある。住民としては残してほしい</u>。
今治 越智	○市は<u>通学費・給食等で支援</u>。数字だけでない検討を。<u>島嶼部に 1 校は存続を</u>。 ○<u>就職・進学など進路保証が重要。島嶼部も含め、平等に進路選択できる環境を</u>。 ○<u>学科やコースの設置は魅力化のツールとして大事だが、行政や地域住民との協力が不可欠。1 町に最低 1 校の存続を希望</u>。 ○<u>魅力があれば、その学校を子どもは選択するので、魅力ある高校に</u>。
松山 伊予 上浮穴	○<u>小中学校は地域に必要</u>とを感じるが<u>高校は異なる。地域の実情に応じた議論を</u>。 ○<u>中予の中学生は厳しい受検環境にある</u>ということに留意した再編を。 ○学校は<u>地域活性化の核で地元も支援</u>。<u>簡単に統廃合を論じるべきではない</u>。 ○<u>中島分校は給食、上浮穴高校は寮等で支援</u>。離島の再編基準の特例は存続を。 ○<u>生徒数減少の中、授業料無償となった私学が選ばれがちで、選択は自由だが、地元・県立がいいということを説明していききたい</u>。
大洲 喜多	○<u>長浜高校の全国募集のための環境整備について対応策を検討したい</u>。 ○地域の特性に合った学科を。<u>共倒れを避け、エリアでまとめるという考えも</u>。 ○地域の特色を生かした高校があるが、<u>アピール力が不足。進学を目指す生徒が松山・私学へ流出</u>。松山への憧れ、<u>私学の魅力の高まり</u>がある。 ○部活、進学率など、<u>地域に密着した幅広い学びができる高校づくりが必要</u>。
八西 西予	○<u>八幡浜市 3 校の統合については、他地域に先んじた検討を</u>。 ○<u>西予市 3 校は歴史もあり地域も努力。小規模校として存続を希望する場合も</u>。 ○域外への流出、他地区の協議内容の影響もあることから<u>南予一帯で検討を</u>。 ○三崎高校の入学生増加はこれまでの取組の成果。<u>各校の魅力発信が重要</u>。 ○<u>不登校傾向生徒の受入れ先となる学校についての検討が必要</u>。
宇和島 南宇和	○<u>地場産業に直結する学校は残すべき</u>。林業や水産業など<u>後継者を育てる学科、将来の産業に必要な学科の設置を希望</u>。ただ、<u>地元定着しているのか検証は必要</u>。 ○学校の存続は、<u>予土線の存続とも関連してくる問題</u>であり、検討の要素に。 ○学校・学級減は避けられないが、<u>学校をなくすと、旧市町単位での反発が予想</u>。 ○就職のための<u>資格取得</u>ができる<u>教育環境の整備の検討を</u>。 ○<u>普通科だけでは特色を出せず、募集停止は必然</u>。新学科を作れないか。 ○<u>域外の進学校、私学への進学が増加</u>している。<u>地元高校のメリットを伝え、3 年後の進路を示すことが大切</u>。宇南中等は地域の実態に応じた再編整備を。

【担当】

高校教育課 魅力化推進 G
TEL 089-912-2954
FAX 089-912-2949